

## VI. 課題研究以外の研究開発 (外国語教育)

doi: 10.18999/bulsea.63.135

## 第1章

## 「英語によるコミュニケーション能力向上プログラム」 ALE (Active Learning in English)

亀井 千恵子

## (1) 目的

仮説検証型課題研究「課題探究Ⅱ」での探究と「協同的探究学習」で身につけた国際的素養を海外で活用するために英語によるコミュニケーション能力を向上させる。プロジェクトはすべて英語で行われるが、スキルとしての英語力向上を目指すのではなく、英語を通して論理的に他者に表現し、積極性と判断力のある生徒を育成することである。

## (2) 実施方法

Global Issueをテーマにし、本校生徒と名古屋大学留学生在が議論する、10回連続のセッションである。それぞれのセッションでは、世界各国から来ている留学生在が、自国の文化紹介と社会問題をテーマに講義を行い、本校生徒に解決策の提案や意見を求める。参加生徒は、留学生と小グループを作り、議論を深めた上で自分たちの意見をまとめ、Power Pointを使用し発表する。

## (3) 内容

		内容
1	10月21日(土) 9:00 ~ 12:00	Barriers to education in Nigeria
2	10月21日(土) 13:00 ~ 16:00	Animal Conservation in Australians
3	10月28日(土) 9:00 ~ 12:00	Tourism in Cambodia
4	10月28日(土) 13:00 ~ 14:30	Uruguay's Meat Consumption and Exportation
5	10月28日(土) 14:40 ~ 16:00	Founding a New Country after The World War
6	11月3日(土) 13:00 ~ 16:00	Motorization and it's Effects in Malaysia
7	11月3日(土) 9:00 ~ 12:00	Emigration in Romania
8	11月11日(土) 13:00 ~ 16:00	Environmental Issues Mongolia
9	11月11日(土) 9:00 ~ 12:00	Difficulties in making environmental policies
10	11月8日(土) 13:00 ~ 16:00	Online Shopping & Mobile Payment in China
11	11月8日(土) 13:00 ~ 16:00	Challenges of Compulsory Education Myanmar

・授業時間：3時間

Pre-session 30分、Lecture 20分、  
Discussion & Presentation 120分、  
Follow-up session 10分

・受講生徒：高校生30名

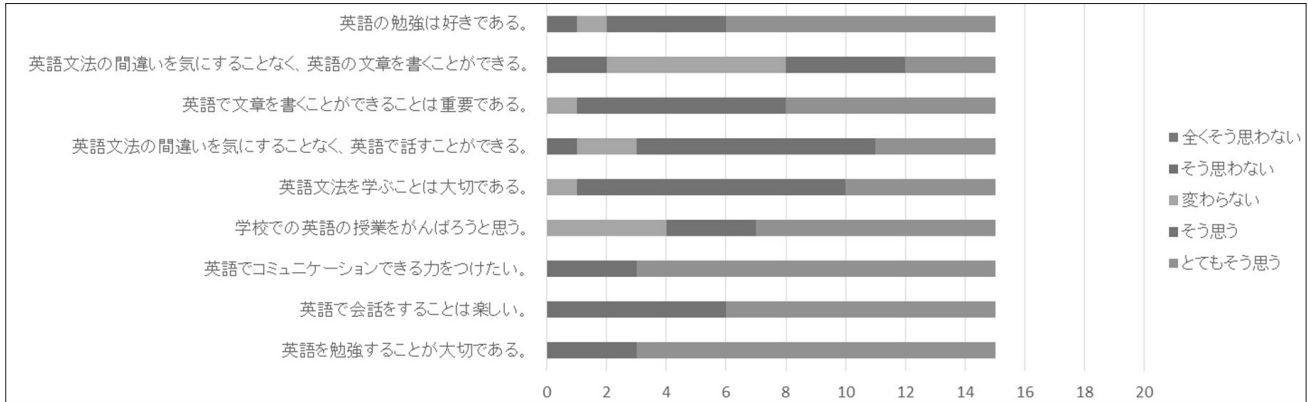
・講師：名古屋大学留学生TA (11名、その他ディスカッションとプレゼンテーションプラン作成時のTAとして2名)

## (4) 成果と今後の課題

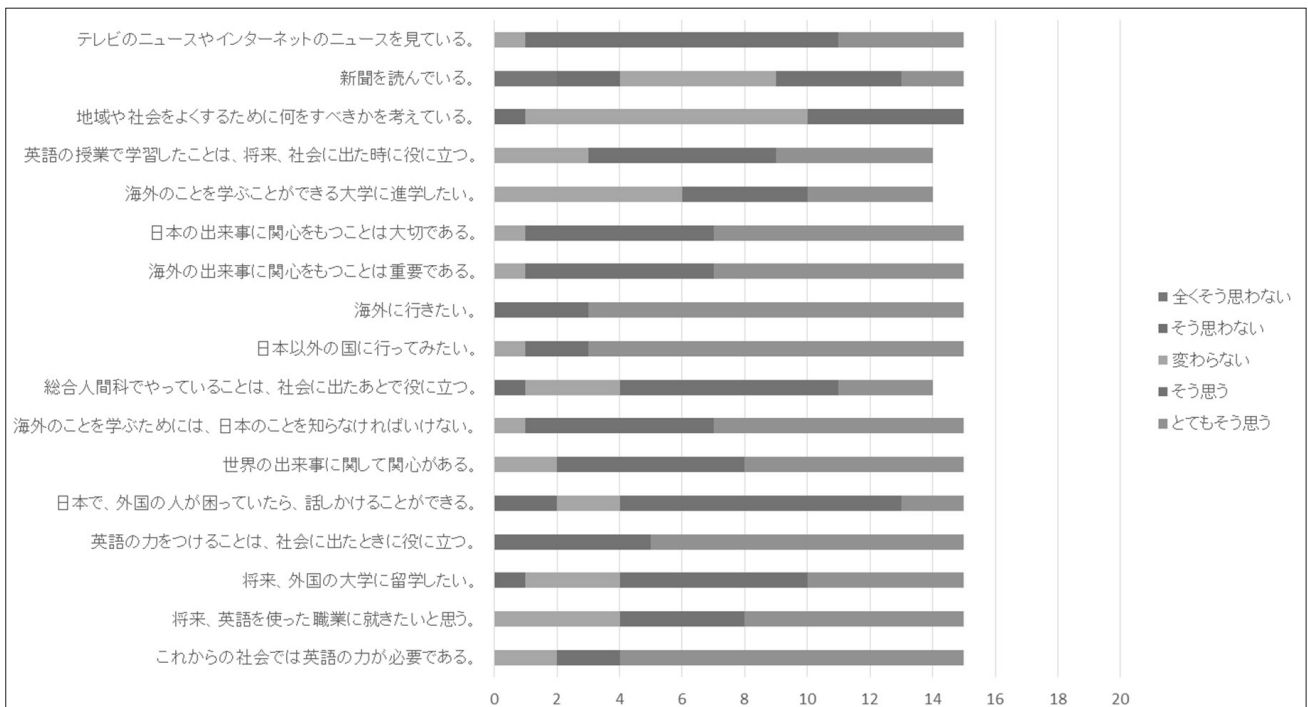
生徒の英語使用へのモチベーションを大いに高めたこと、英語使用への緊張感を緩和させたことについては非常に効果的なプログラムであった。この効果を更に高めるには継続的な活動が必要だと考えられるが、学校、生徒、留学生すべての日程をいかに調整し、機会を与え続けるかが今後の課題である。

(5) 振り返りアンケート (生徒の意識調査)

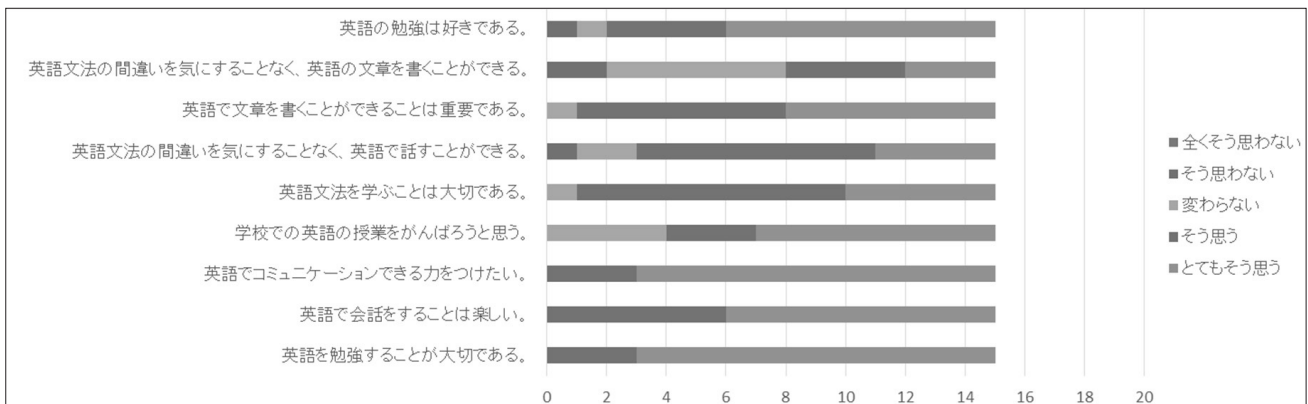
※ALE事業に関する自己評価



※外向き志向に関するアンケート



※英語学習に関するアンケート



(文責 亀井千恵子)

**(6) 海外生徒等との交流を通じた英語活用の実践と学び**

本校には毎年100名を超す海外からの来訪者があり、彼らとの交流の機会を常日頃の英語学習の実践の場として、また日本と日本の学校教育の紹介を通じた自国文化の再確認と、双方の国際理解の場として活用している。

	国名	人数 (高校生)	人数 (その他)	関係機関等
4/1 - 1/24	カナダ、スウェーデン	2		AFS (1年間)
5/11	台湾	34	4	花蓮高級中学校
5/30	インド、ネパール、ブータン	87	18	JST日本・アジア青少年サイエンス 交流事業さくらサイエンスプラン
6/15 - 8/18	モンゴル		2	新モンゴル高校教員研修
6/15 - 7/17	モンゴル	1		新モンゴル高校
6/30 - 7/7	アメリカ	7	9	SGH米国ノースカロライナ
7/7	台湾		22	台湾大学教員、 初等中等教育関係者
7/10 - 7/17	モンゴル	9	2	新モンゴル高校
7/11	ベトナム	20	2	コクヨベトナム
7/12	アメリカ、イタリア、カナダ、チェコ、 ドミニカ、トルコ、ブルガリア	14		AFS
11/27	フランス、ドイツ、香港、インドネシア、 オランダ、ノルウェイ、フィリピン、 サウジアラビア、シンガポール、 スウェーデン、台湾、英国		49	世界授業研究学会
12/11 - 15	中国、ブラジル	2		AFS異地域交流
12/11	中国	26	4	2017年度中国高校生訪日団第四陣 州省機械工業学校・建設学校

生徒は各自、事前準備として日本文化、本校または日本の高校生活について、限られた時間内で紹介する方法を考える。交流の際は小グループを編成し、各自で当日の動きを計画する。

英語を外国語として学ぶ国々からの来訪者との、英語を使用したやり取りは、生徒たちに以下の影響を与えると考えられる。

- ・様々なアクセントの英語に触れることで、自らの発音に対する意識が変わる。日本式アクセントであっても英語であり、使用するに足るという考え方を育てる。
- ・相手の英語が聞き取りにくいと感じれば、自らのアクセントについても同じように受け止められると自覚し、発音・アクセントに気遣う意識を高める。
- ・お互いに不完全な英語文法の理解に努める時間は、今後の文法学習への意欲を高める。

授業内では限界のある英語使用の実践は、生徒達に強い印象を与え、ほとんどの生徒から「楽しかった」「もっと英語を話せるようになりたい」「まだまだ(自分の)語彙が足りない」等の声が挙がった。こうした機会が、生徒に英語学習の必要性和楽しさを感じさせてくれている。  
(文責 亀井千恵子)